



ごあいさつ

熊本県中学校体育研究会

会長 古賀 義久

県下の中学校保健体育担当者をはじめ、県教育委員会や多くの関係者の皆様をお迎えし、令和5年度第50回熊本県中学校保健体育研究発表大会が、人吉球磨におきまして、盛大に開催できましたことに、心より感謝申し上げます。

本研究では、主題を「主体的・対話的で深い学びを実現する保健体育科学習の創造」と掲げ、全ての生徒が楽しさや達成感を味わえる授業をめざした研究を進めて参りました。特に、グルーピングの工夫やICT活用、ルールや場の工夫、成長や達成感を実感する目標設定や評価方法についての取り組みを、人吉球磨中体研の先生方や生徒達による、授業を楽しみ意欲に満ちた学習活動を発表していただきました。

近年、各郡市の中学校では、生徒数の減少と学校統合により、保健体育担当者の減少と保健体育担当者が一人という学校が増加しています。

そのような中で、今後、それぞれの学校における保健体育教師の力量を高めるための取り組みが不可欠であり、個々の先生方の授業力や指導力の向上のためにも、人吉球磨中体研を、持続可能な新たな学習の手立てとして取り入れ、保健体育学習の更なる充実と発展に大いに活用してほしいと思います。

特別講演では、「生徒が主体的に体育に取り組む授業の工夫」と題して、熊本大学大学院教育学部研究科教授 坂下 玲子 様にご講話を頂戴し、保健体育授業の工夫として、「主体的・対話的で深い学び」における、「良質の体育」や「体育の見方・考え方」等の多面的な視点からのお話や、人吉球磨の研究発表でも取り上げた「グルーピングの工夫」など、大いに参考になる内容をご教示いただきました。

今後は、コロナ感染症の様々な制限が解かれ、再び学校教育活動が活性化していく中で、中学生における心身の健康と体力の保持増進は、あらためて保健体育学習が握る重要な鍵でもあり、主体的・対話的で深い学びの学習に併せて、その必要性和取り組みを持続させていかなければならないと考えます。

結になりますが、本年度の本研究会事業並びに保健体育科教師に対しまして、多大なるご指導とご支援を頂きました、熊本県教育庁県立学校教育局体育保健課をはじめ、各教育事務所や市町村教育委員会様など関係各位の皆様方に、心から感謝申し上げますとともに、今後とも次年度開催予定の玉名荒尾中学校体育研究会を含めました、持続可能な本研究会の充実発展のためのご指導とご鞭撻を賜りますよう併せてお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。